

トマト産地のリニューアルに向けた低コスト生産技術の開発

先進的に発達したトマト産地の現状
・施設の老朽化・分散化
・輸入野菜の増大による販売価格の低迷
・担い手の高齢化

トマト産地の総合的なリニューアルが必要
・施設の建設コストの大幅な低減
・低コスト省力周年高品質栽培
・大規模経営モデルの策定

達成目標

**建設コストを
半減**

**新構造部材の製造～組立までのシステム化
によるハウス建設の超低コスト化**

部材製造・流通過程へのアプローチ

- ・最適部材の選定
- ・新構造部材の導入・利用
- ・産地直送流通システムの導入

(大阪府立大学・グリーンテック)

組立工程へのアプローチ

- ・新部材による簡易組立
- ・パイプ基礎工法
- ・新タイプの屋根構造と工法

(グリーンテック・大阪府立大学)



栽培ハウスとしての仕様設計

- ・換気構造の最適化
- ・耐風性・耐雪性の評価
- ・被覆資材の固定方法・耐久性の検討
- ・栽培環境としての特性評価

(グリーンテック、農業工学研究所、三菱化学MKV、野菜茶業研究所)

**新ハウスに適した環境調節技術の開発
低コストなトマト省力周年栽培技術の体系化
トマト産地の経営分析、新ハウス導入の経営評価**

(野菜茶業研究所・愛知県農業総合試験場)

**東海地方における
トマト産地のリニューアル
モデルの提示**

研究終了後の波及効果

経営基盤が強固で担い手や消費者の要望に対応できるトマト生産体制への転換の促進・国際競争力の強化